

平成 26 年度 中四国ブロック研修会開催報告

高松赤十字病院 技師長 安部一成

例年であれば、もう少し早い時期に開催される中四国ブロック研修会ですが、平成 26 年度は担当施設である当院の諸事情により、寒さ厳しい 2 月 28 日に開催されました。滅多に雪が降らない四国の地ですが、それでも毎年 2 月頃には雪による交通機関への影響が出ることもあり若干の心配もありましたが、取り越し苦労に終わり安堵しています。

今回は「放射線災害への取り組み」をテーマに、まず清水会長に本会の活動に加え、赤十字本社としての原子力災害への取り組みについてご講演いただき、日本赤十字社の具体的な取り組みや方向性などについて、分かりやすく解説していただきました。



清水文孝会長



梶谷技師長

引き続き、折しも本研修会直前に「日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会」に参加し研修を終えたばかりの当院藤原会員からその内容や模様についての報告があり、前半を終えました。



藤原会員



磯田技師長



吉崎会員



研修風景

後半は、香川大学医学部附属病院副技師長、笹川泰弘先生に「放射線被ばく影響と防護」～福島原発事故からの教訓～ と題してご講演いただきました。笹川先生は、この分野では大変造詣が深く、参加された会員の皆様には非常に貴重な講演内容ではなかったかと思ます。



笹川先生



安部技師長



ケーススタディ



古川会員と松村会員

最終プログラムは、被災された方からの質問を想定したケーススタディを企画しました。質問者と回答者側に分かれて放射線の影響などへの質問にどう対応すればよいかをシミュレーションするわけですが、当日の急なお願いにもかかわらず、回答者役を快くお引き受けいただいた松江赤十字病院の古川様と松山赤十字病院の松村様には心から感謝申し上げます。



ケーススタディでの会場風景



入川技師長

最後に、次回担当施設鳥取赤十字病院の入川技師長様よりご挨拶をいただき、研修会を終えました。

53名の参加者の元開催された研修会も無事終わり、その後の情報交換会では38名のご参加をいただき、それぞれに日常業務や関心事について情報を交換し、またそれぞれの席で会話の花が咲き、有意義な時間を過ごすことができました。

研修会に参加された皆様、大変お疲れ様でした。